



芝小だより 第11月号

発行所 港区立芝小学校

〒105-0014

港区芝 2-21-3

[TEL:03-3456-3072](tel:03-3456-3072)

FAX:03-3456-3071

原動力は好奇心

校長 川原 哲郎

「原動力は好奇心」

これは、10月上旬、ノーベル物理学賞の受賞が決まった、真鍋淑郎さんの言葉です。真鍋さんは、約60年にわたって気候の研究を続けてきました。この研究を続けてこられたのは、好奇心があったからだということです。私はこの話を聞いて、ノーベル賞を受賞する人は、やはりすごいなと思いました。好奇心をもち続け、それを追究し続けることは、とてもエネルギーがいることで大変だと思います。しかし、同時に知らないことや分からないことが分かっていく楽しさを知っていたからなのだろうとも思いました。

辞書を引くと「好奇心」とは、「珍しい物事、未知の事柄に対する興味」と書いてあります。子供たちの言葉にすると、「なぜ?」「どうして?」「なに?」になるのかもしれませんが。子供たちは、大人が当たり前と思っていることでも、なぜ?どうして?とを感じるものです。私もよく、子供たちからこの言葉を言われます。私は分かっていることでもすぐに答えを言わず、「なんでだろう?調べてみれば。分かったら教えて。」と言っています。今、子供たちには一人1台のタブレットがあります。低学年はまだ難しいかもしれませんが、中学年以上はインターネットを使って調べることができます。ネット上の情報がすべて正しいというわけでもないし、必ずしも求めている答えがあるわけでもないと思います。しかし、自分が「なぜ?」「どうして?」と興味をもったものを自分で調べて理解していく第一歩になるといいと思っています。

6年生が、10月26、27日と箱根移動教室に行きました。その1日目は、自分が興味をもったものを課題としたグループに分かれて、課題解決のために活動しました。どのグループも体験を通して学び、充実した活動ができたようでした。実際に体験して調べることは、とても重要なことです。6年生は、今回の成果も含めた課題別学習のまとめを11月の学習発表会で行います。どのようなことを学び、どのようにまとめ、発表するのかとても楽しみです。

興味をもったことを知りたいと思うことは、学びの原点だと思います。芝小では、子供たちの「なぜ?」「どうして?」を大切にし、その気持ちを引き出せるように授業をつくっています。「なぜ?」

「どうして?」と思ったことを課題とし、粘り強く課題を解決していくことで、知らなかったこと、分からなかったことを知る楽しさを味わわせていきたいと思っています。このことが、未来のノーベル賞に繋がるかもしれません。

